町の考えを聞く

黒沢一成議員

農林行政

産直活動と一体的とは

営農指導・情報提供で

質問　町長所信表明について、次の点を問う。

①農業の振興について「産地直売活動と一体的に推進する」と述べている。具体的な取り組みは。

②乾しいたけのブランド化の進め方は。

沼崎町長

①本町の産地直売施設は農家の人が経営しており、人気の商品は、野菜、花き、団子などである。野菜・花きの良質な作物を作るためには、栽培技術の指導が必要である。また、経営を行っていくためには、購買する消費者の情報などが必要になる。

産直農家の売り上げ向上につながるよう、関係機関・団体と連携を図り営農指導、情報の提供に努めていく。

②本町の乾しいたけは全国規模の品評会で農林水産大臣賞を九年連続で受賞し、全国的に認知されている。

県では、活性化調整費を活用して「宮古地方乾しいたけ」のブランド化を推進している。本町でも関係機関と連携を図り、林家の所得向上に努めていく。

昨年４月に豊間根地区にオープンした産直施設。組合員が生産した新鮮な野菜などが販売されにぎわいを見せています。

産業振興

深層水で山田ブランド化を

価格・特許権の関係で限定

質問　山田牛、一粒カキ、ほたて、しいたけなど、山田の特産物をブランド化するため、海洋深層水を利用することはできないか。一部では実際に活用しているようである。これを全般に応用して山田産は三陸沖の海洋深層水を利用とイメージ的に付加価値を付け、他との差別化を図ることは考えられないか。

沼崎町長　海洋深層水の利活用に関しては、検討会において水産業を中心に農業、食品加工業などでの利用を模索してきた。

その結果、深層水の販売価格が高価なため利用の方向が限られること、有力な商品には特許権が設定されており、販売に制約があることが分かった。

このことを踏まえ、少量の使用で効果があり、地域限定商品として商品化できたのが「干し麺」である。水稲への利用は実験を行ったが、刈り取ったばかりでまだ結果が出ていない。

海洋深層水を使い地域限定商品として商品化できた「干し麺」